

 **栃 木 市**  
**教育委員会だより**



発行：栃木市教育委員会  
住所：栃木市万町 9-25  
電話：0282-21-2467  
FAX：0282-21-2689  
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



【寺尾小学校：運動会】



**「誰一人 取り残さない教育の推進」**



栃木市  
マスコットキャラクター  
とち介

『第3期栃木市教育計画』

**基本理念**

希望に向かい 伸び伸びと個性を発揮し  
互いに認め合いながら より良い社会を築いていく  
‘とちぎ愛’ に満ちた人を育てます





# 栃木市教育ニュース



今号の『栃木市教育ニュース』では、「地域とともにある学校～栃木市コミュニティ・スクール～」について市民の皆様にお知らせします。

## 地域とともに ある学校



【国府南小：運動会】



【静和小：田植え】



【赤麻小：さつまいも苗植え】



【大宮南小：水辺の活動】



【真名子小：ふるさと交流ウォークラリー】

いいまちにはいい学校がある…いい学校はいいまちをつくる



## 『地域のプラットフォームでつながる』 ～学び続ける力を磨き、地域の未来を創る子どもたち～

文部科学省が提唱している「令和の日本型教育」の中に“地域とつながる”があります。栃木市では、平成29年度より、地域に根ざした教育の実現を目指して、県内初めて市内全ての公立小中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入しました。学校と家庭・地域の方々が共に知恵を出し合い、学校づくりに参画することで、子どもたちの健やかな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進めていく仕組みとして始まりました。この推進を支えるエンジン・ルームに相当するのが“学校運営協議会”で、地域との架け橋的な役割があります。昔から子どもは、地域の人たちや環境が育てると言い伝えられてきたことから、地域全体が学校であると言えるのではないのでしょうか。これからの学校は、地域活性化の拠点としての“地域のプラットフォーム”になっていくと考えられます。市内には地域に根付いた歴史・文化・伝統そして四季折々の豊かな自然がある一方、貴重な体験を積まれた多くの方々が暮らしています。市民の一人として、地域の文化・歴史などの学習を通して、“学び続ける力を磨き、地域の未来を創る子ども”として確実に成長してほしいと願っています。そのためには、地域活動の拠点としての学校施設を地域の方々が自由に利用できるようにしたり、学校のウェブサイトやSNSを活用して、学校と地域の情報を速やかに発信したりすることが鍵となります。さらに、地域の方々との双方向によるネットワークの強化やオンラインによるアンケートなどの実施によって地域の方々が学校の取組に関心をもつ契機となっています。こうした取組を通して、学校が地域の中心的な存在として機能し、地域と一体となった教育環境を創り上げることができそうです。結果として「地域に拓かれた」から「地域と共にある学校」へと発展的な移行が実現でき、学校・家庭・地域との連携協働による学校と地域の活性化が実現しました。共感と納得と合意を伴った対話を重ねることで、“学校が動き、地域が変わり、子どもが育つ”という実感を共有することができ、多くの人との絆が深まっていきます。今後「栃木市コミュニティ・スクール」の更なる発展のために、相談窓口や責任の所在、委員選出基準と人材確保、打合せ時間の確保、PTA活動や地域ボランティアとの連携、情報発信力、教員の働き方改革等々の諸問題に向き合いながら、母校を愛し、郷土に対する理解と愛着と誇りを深めていくことが地域全体の“にぎわい化”につながるものと期待しています。

教育長職務代理者 後藤 正人



# 教育委員の活動日誌



教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、その定例教育委員会と毎年教育委員会が行う自己点検及び評価の参考となる意見を聴取する点検評価委員会議の様子を紹介します。

## 定例教育委員会



毎月開催している教育委員会の会議です。

本市の教育に関する様々な事務について、事務局職員からの説明を聞いたうえで、7名の委員が活発に協議を重ね、実施の決定等審議を行っています。

## 点検評価委員会議



点検評価委員会議では、有識者及び教育関係者である5名の点検評価委員から、令和5年度の本市教育事業について様々なご意見をいただきました。



## 栃木市の教育・私の一押し事業 ～教育委員から～

### 今しかない子ども時代に

とびっきり子ども時代を楽しんでいますか？栃木市版「子どもと文化の発信基地」の栃木おやこ劇場では、生の舞台、劇や音楽の鑑賞活動だけでなく、五感をフルに使った体験活動や地域と繋がる活動、子育て支援など、子どもを真ん中に大切に行っているNPOです。感性を豊かに育むには、心が動く（インプット）と、表現する（アウトプット）その両方をバランスよく体験することが大切で、その環境は「安心できるコミュニティの中」にこそあります。心に秘めた「きらきら」をあたかなまなざしで見守られる場所での、心揺さぶられる体験は生きていく中での「心の肥やし」宝になるのです。そして、今年度は「なないろカフェ」として週1回不登校の親子を対象にゆるっとした集いも開催しています。親子と、仲間と、共に感動を味わってみませんか。

教育委員 舘野 知美

### 地元歴史教育の一側面

孫悟空の『西遊記』で有名な三蔵法師はインド巡礼を記録に書き、アジアを訪れたマルコポーロは黄金の国ジパングを回想録に述べ、栃木市出身の円仁は、大弾圧被害を含む唐国求法を日記に詳述しました。これらが、世界が誇る三大旅行記です。

文学館、地元歴史教育の成果によって、円仁への無知を恥とする空気が徐々に拡まっています。絶望的に荒れ狂う日本海を渡りつくした、その遣唐使船をかたどったのが、近隣からの聴衆が絶えないコスモスホールそのものです。

歴史は読者の心の後ろ側で渦を巻き、伝承文化は流れ来たりて喝采に花開き、矜持はレガシーの上で輝きます。

教育委員 林 慶仁

### ハッピー子育て講座

昨年6月より教育委員の仕事に携わり、この一年間色々な講座や研修で沢山の事を学ばせて頂きました。その中でも、生涯学習課で行っている「ハッピー子育て講座」は私の一押し事業です。人に話せない子育ての悩みや解決法など専門家の方からのアドバイスは子育てにプラスになっています。昨年までは我が子が通っている学校のための講座でしたが、今年度からはなんと中学校区の講座にも、希望すれば行くことができます。子育てのヒントやノウハウを学び、一緒に子育てを頑張っていきましょう！

教育委員 大塚 裕子

### 先生たちが繋いできたもの

かつて大平町で教育委員をしていた頃、ある先生に「私は〇〇校長先生のもとで働けて、すごく幸せなんです」と言われたことがある。その言葉を伝えた時の〇〇校長先生の誇らしげな笑顔は、今でも忘れられない。それから20年近くになるけれど、何度か同じような話を耳にした。一般にはなかなか聞こえてこない話でもあるし、栃木市民の方にはぜひ知っておいてもらいたい事実である。小職が考える栃木市の教育の一番の自慢は、長い時間をかけて先生方が自ら作り上げてきた風土と先生どうしの絆である。

教育委員 福島 鉄典







## 「栃木市版 部活動の地域移行」を進めています！ ～ 学校部活動から地域クラブ活動へ ～



栃木市における部活動の地域移行の方針を定めた「栃木市版 部活動の地域移行」基本方針を令和6年3月に策定しました。

本市における部活動地域移行推進の方向性や目標などを示しています。子どもたちや保護者の皆様のご理解のもと、地域や学校の実情に応じて、まずは、**休日における運動部活動**から、実施可能な部活動について段階的に地域移行を進めていきます。

現在、2校4部活動で実証事業に取り組んでいます。9月からは、7校11部活に拡充していく予定です。

◎部活動地域移行の指導者や部活動指導員、外部指導ボランティア等に  
興味のある方は、下記事務局までご一報ください。



「部活動の地域移行」の詳細については、二次元コードからホームページをご覧ください。



地域クラブ活動指導者の指導による活動の様子（大平中学校）

栃木市では、2025年度までにすべての公立中学校の休日の運動部活動を二つ以上地域クラブ活動に移行することを目標としています。

昨年度から吹上中学校と大平中学校で先行実施されています。

休日のクラブ活動では、地域指導者の専門的な技術指導により、生徒の意欲や技術の向上が図られています。

また、顧問の業務負担軽減により、教員の働き方改革にも繋がっています。

今後も、生徒や保護者の方々に理解をいただきながら、学校・保護者・地域が連携することで、段階的に地域移行されるよう願います。

教育委員 西脇 はるみ

## 教育長通信 ～子どもたちの笑顔のために～



一人の女性がいます。その人の名は、森田志歩さん。私のこれまでの人生の中で、彼女ほど確固たる信念をもって、自らが成すべきと決めたことに全力を注ぎ活動してきた人に出会ったことはありません。

森田さんは、息子さんが中学2年生の時にいじめが原因で不登校になったことをきっかけに「いじめ問題」に携わり始め、2021年にNPO法人「Protect Children～えいえん乃えがお～」を立ち上げ、代表理事に就任しました。以来、いじめ問題に係る相談応需はもとより、いじめ問題調査委員会への立ち会い、学校及び教育委員会、保護者の話し合いへの立ち会い、講演、文科省主催会議への参加等々、実に精力的に活動されてきました。全国から寄せられた1,000件を超えるいじめのケースに携わる中で、森田さんは気付いたと言います。「いつの間にか、子どもたちの気持ちが置き去りにされている」と。そして、こんなことも仰っていました。「子どもたちの保護者が、いじめについてよく分からないまま声高に誰かを責めることもよくあります。中には、相手が要求に従うまで子どもを登校させないという保護者もいます。学校はそうした保護者の求めに対応しきれず事態はますますこじれていき、その狭間で身動きの取れなくなった子どもたちからの悲痛なSOSが数多く寄せられています」と。

本来、いじめ問題への対応のみならず、教育という営みの全てが子どもたちの幸せのためにあるべきものです。さらに教育は、子どもを真ん中に置いて、学校、家庭、地域、そして行政がそれぞれの果たすべき役割を認識し、その役割をしっかりと果たしてこそ立ち行くものと思います。栃木市教育委員会といたしましても、その実現に向けて様々な角度からアプローチして参る所存ですが、皆様におかれましても、それぞれのお立場で子どもたちの幸せのために陰に陽にお力添えをいただければ幸いです。

精力的に全国を飛び回っていた森田さんですが、一昨年初、難病を発症し療養生活を余儀なくされました。しかし、そのような中であっても森田さんは、「私の命がある限り、子どもたちの笑顔のためにできることをやり続ける」との強い信念のもと、ベッドの上からオンラインで途切れることのない子どもたちからの相談に応え続けています。（2024年6月現在）

教育長 青木 千津子

【編集後記】 “教育委員会だより 絆” は市民の皆様にも、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は  
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25  
電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp